

平成 18 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」

社会福祉法人 新生会（理事長：石原美智子）

昭和 51 年 4 月 15 日設立

【授賞理由】

社会福祉法人 新生会が提唱してきた「入所者を選ばない」「拘束をしない介護」という理念は現在の施設のあり方や福祉の方向性の追求に貢献するだけでなく、認知症高齢者の人たちに住み慣れた在宅での生活の継続を実現させるとともに、地域住民の理解や徘徊老人の見守りといった優しい地域社会の実現に大きな影響を与えた。その功績に対し、本賞を授与するものである。

【事業活動等】

- ・ 昭和 51 年より重度の伊認知症高齢者の受け入れ、拘束をしないホームとして認識される
- ・ 昭和 53 年オーストラリアにて「尊厳を守るケア」を学び、スタッフ一同その実践に励む。
- ・ 認知症ケア研究会発足。その研究成果を日本認知症ケア学会や専門誌にて発表。
- ・ 平成 5 年厚生労働省モデル事業「自由契約制特養」を解説。新型特養の原型事業として展開し、現在の施設のあり方に貢献する。
- ・ 平成 11 年揖斐広域ケアマネジメントセンターを受託、ケアマネジャー、調査員、審査員の研修や立ち上げ業務に制度導入のリーダーとして貢献する。
- ・ 平成 15、16 年厚生労働省モデル事業「未来志向プロジェクト」として若年障害者と認知症高齢者が共生するグループホーム事業に取り組む。
- ・ 小規模多機能、サテライト特養、既存施設の個室化や“早めの住みかえ”をテーマに福祉住宅として、池田町、岐阜市駅前高層ビルにて実施

【概 要】

社会福祉法人 新生会は昭和 51 年開設以来、地域における認知症高齢者及びその家族の苦を取り除く事を使命とし、入所利用者を選ばない、拘束をしない介護を提供し、住み慣れた在宅での生活の継続のためにと、事業展開を行ってきた。又、当時「認知症高齢者に対する住民の偏見」は根強く、その存在を隠す家族の言動に措置する自治体も認知症高齢者はいないと理解していた。かかりつけ医として往診する医師は認知症高齢者への偏見をなくす為、地域での活動を通し、住民の意識改革への取り組みに時を掛けて行ってきた。

【褒章等】

- | | | |
|-------------------|--------------------------------------|----|
| 平成 10 年 11 月 | 全国老施協全国大会奨励賞 “問題行動改善への介護の工夫” | 受賞 |
| 平成 13 年 11 月 16 日 | 全国老施協全国大会最優秀奨励賞
“施設におけるリスクマネジメント” | 受賞 |
| 平成 16 年 9 月 19 日 | 日本認知症ケア学会石崎賞 “奇声は心の叫び” | 受賞 |